



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

Tsushima maru press

令和7年2月28日発行 第50号

発行：(公財)対馬丸記念会

発行人：高良 政勝

編集：対馬丸記念会事務局

この冊子は、厚生労働省の予算で作成しています

巻頭言



平良次子
館長

対馬丸事件からちょうど80年、小桜の塔建立から70年、そして記念館開館20周年という大きな節目の昨年2024年が過ぎました。これまでを振り返ると、実に多くのみなさんのご協力と、熱い思いに支えられて対馬丸記念館は歩んできたのだと、感謝に堪えません。事件から80年目の慰霊祭は、多くの方々がその節目を刻むかのようにお集まりいただき、20周年祈念式典や夜の慰霊祭まで長い1日の祈念の日となりました。対馬丸がちょうど80年前のその時間に沈没したことを思い、まるで忘れないでという声に包まれるかのように静かに慰霊祭を終えました。

80年もたつと、世代も変わります。犠牲になられた皆さんのご遺族といってもお会いしたことのない、おじさんやおばさん、祖父母の兄弟などへの慰霊祭となっています。方々も少なくありません。最近では、犠牲者へたどれる親族が、「対馬丸の関係者」というご自覚をもって、記念館に連絡をしてくださる方々もいます。今後その方々と繋がり、対馬丸記念館の活動に活かしていければと期待しています。2025年は沖縄戦から80年を迎え、県内各地でさまざまな取り組みが計画されているようです。戦争の実相を後世に伝えたいと、悲劇を繰り返さぬための映画製作や絵本などの刊行、演劇公演などの取り組みや表現活動も盛んです。対馬丸記念館では、今年6月から8月に向け、沖縄関係の対馬丸以外の戦時沈没船について企画展を予定しています。沖縄関係の戦没船、さらに全国の戦没船などを紹介することで、当時の「海の戦争」についてより知ることができるようではないかと思っています。

対馬丸記念館 2024 秋の職員研修

みんなで学ぼう！「平和発信」施設を巡る



12月19日、休館日である木曜日に、開館以来初の試みとなる職員研修を行いました。参加者は職員全員に三役と理事、つしま丸児童合唱団の先生方、語り部で生存者の照屋恒さんなど総勢22名。マイクロバスに乗って、平和発信施設3カ所を巡りました。

企画した平良次子館長は「同職の仲間たちの想いや活動、掘り起こされる人権問題や戦争の実相は限りなくあるのだと思います。違う視点で学んでみることで、自分の目の前のことがいかに大したことがなく、小さなことでごちやごちや悩んでいたかと思うことがあり、時々殻を破って日常に異なる視点を入れることで、気持ちをしっかりと保てることがあるのではないか」と研修の目的について述べました。



バスガイドは平良次子館長

沖縄愛楽園

まず向かったのは屋我地島にあるハンセン病療養施設沖縄愛楽園。学芸員の鈴木陽子さんより、愛楽園が現在の場所にある理由や

いきさつ、入所者やその家族が受けた苦難や差別の歴史などが詳しく語られました。

戦時に「働かざる者食うべからず」と園長から壕掘りを命じられて、手指の神経が麻痺した状況で大変な無理をした結果、痛みを感じないまま傷だらけとなり指をすべて切断せざるを得なくなった話は、両手を広げて見せている証言者の写真とともに胸に強く焼き



沖縄愛楽園交流会館前で記念写真



納骨堂「平安之苑」に向かっています



鯨のヒゲ標本は本物で触れます



床の地図で地理のお話

名護博物館

つぎました。

研修のつい数日前には、ハンセン病回復者が地域社会で安心して暮らせず再入所したという新聞報道もありましたが、差別や偏見が昔から変わらないうち、いまだに根深いことがわかります。

敷地内にある交流会館の常設展示室には「ハンセン病とは——人と病」「戦世と病者——愛楽園の沖縄戦」などのコーナーがあり、入所者の証言や写真、ゆかりの道具や物を見ながら、鈴木芸員から愛楽園の苦難の歴史を学び、ハンセン病についての理解を深めることが出来ました。

次に訪ねたのは名護博物館です。2023年5月に新しくオープンした施設で、基本テーマは「名護・やんばるのくらしと自然」というだけあって、展示内容は大幅く多岐に渡っていました。



「人の一生と儀礼」コーナーにて

説明してくださったのは稲福学芸員。一階が自由に通り抜けられる構造となっており、その先には古民家再現スペースがあるという話から始まり、やんばるの水辺に棲む生き物たちの水槽コーナーや、床に大きく描かれたカラフルな地図による地理的特徴の説明。はたまた壁一面の年表の前で歴史の話、その向かいにはオリオンビールや泡盛がずらりと陳列されていて、もう盛り沢山のフロアでした。しかしそれはプロローグであって、本編の常設展示は二階です。階段を上がると天井に吊り下げられた巨大クジラの骨格標本が目を見せます。「海」「山」「まち・ムラ」の順番で名護・や



海辺からマングローブ干潟へ

んばるの自然環境や人々の営み・暮らしが、じかに触れられる展示物で再現されていました。

私たちの到着が遅れたために滞在時間が短縮されて、かなり端折ったのガイドをお願いする事態となりましたが、稲福学芸員によれば本来の



名護博物館入り口前で集合写真



名護・やんばるの沖縄戦も学びました

案内だと4時間は話せます、とのこと。歴史の時間空間がまるでプラネタリウムのように目の前に広がる、豊かな見識に裏付けられた館内案内でした。

佐喜眞美術館

研修最後の訪問施設は佐喜眞美術館です。普天間基地内から土地を一部取り戻して造られており、二〇二四年に30周年を迎えられました。

学芸員・上間かな恵さんは佐喜眞美術館を象徴する作品「沖繩戦の図」の前で、佐喜眞道夫館長の生い立ちから美術館が出来るまでを詳しくお話しくださいました。

軍用地代で身を亡ぼす人も多い中、この不労所得をどうやって活かそうかと考えた佐喜眞さんは、絵画のコレクションを続けていた時に丸木位里・俊夫妻と運命の出会いをされました。丸木夫妻の精魂が込められた「沖繩戦の図」を展示するために造ったという美



昼食は美味しいソーキそばなど

術館の内部はガマのような構造となっていて、庭の重厚な亀甲墓とは統一感のある外観です。また屋上の階段は6月23日(慰霊の日)

の太陽の日没線に合わせたつくりとなっていて、沖繩らしさにかなりこだわっています。

迫力ある巨大な「沖

繩戦の図」の解説で、凄惨を極めた地上戦の真実について流暢に言葉を尽くして語ってくださった上間学芸員にこんな質問をしてみました。「保育園児などの幼い子どもたちにはどう対応なさっていますか?」

上間さんいわく子ども達はみずみずしい感性で作品と向き合い、思いがけない話をしてくれたりするとのこと。子どもらの祖父母は明らかに戦後生まれ。にもかかわらず「おじい(おばあ)から聞いた」と戦争の話をするのだとか。つまり、どこかで聞いた話をあたかも自分の祖父母から聞いたかのように話してくれたりするそうです。

そういえば2022年6月23日の全戦没者追悼式で「平和の詩」を朗読した徳元穂菜(ほのな)さん(当時7歳)は家族とともに佐喜眞美術館を訪れてこんな詩を作りました。

「びじゅつかんへお出かけ おじいちゃんやおばあちゃんもいっしょにみんなでお出かけ うれしいな (中略)



基地ではドローンが故障する光線が飛び交うとか



佐喜眞美術館前での記念写真

せんそうがこわいからへいわをつかみたい ずっとポケットにいれてもっておく ぜったいおとさないようにくさないように わすれないように こわいをして、へいわがわかった」

昔あった他人ごとではなく、今を生きる自分のこととして、しっかりと彼女は戦争と平和を理解していました。一般的に詳しい解説を聴くことで理解がより深まるわけですが、幼いひとにもダイレクトに真実を伝えるアートの力をあらためて実感できました。

総括

今回の受け入れ先と平良館長が事前にしつかりと打ち合わせをしてきたからなのか、三施設とも予想以上に手厚く対応してくださり、非常に充実した研修となりました。知識の質と量に裏打ちされた解説は、的確な言葉と文脈で構成されていて、よどみなく流れる水のような語りとはにかく見事でした。

ところで、対馬丸記念館の基本理念は冒頭で「いま『対馬丸』を語ることに、それは何でしょうか? 戦争のこと? それとも平和?」と問いかけ、「本当に語って欲しいこと、それはいまそこにあるそれぞれの『夢』のことです」と続きます。

ウクライナやミャンマーの内戦など世界各地で戦争が終わらない中、人權は蹂躪され、自然環境や文化は破壊されて、日々ぼう大な夢や未来が奪われているのを私たちは現在進行形で目撃しているが止めることが出来ずにいます。だからこそ、今回の研修で学んだことを仕事と暮らしに反映し、平和な未来つくりの微量でも還元していきたいと考えています。



第45回チャーがんじゅう講座 「どうする？波の上エリアの 津波避難」

9月28日に対馬丸記念館一階企画展示室にて「どうする？波の上エリアの津波避難」と題して防災講座を行いました。講師は防災士と社会福祉士の資格を持つ稲垣暁さんです。

まずは波の上エリアの歴史の話から始めました。300年前の地図を見ながら、浮島だったところに記念館や波の上宮が建てられ、泊港や那覇港、奥武山などが広範囲に渡って埋立地であることが示されました。「かつて海だった場所は海に戻ろうとする」というお話がとても印象的でした。

沖縄は地震が少ないように思えますが、実は近海での発生は多く、将来起こり得る巨大地震の予測は県がホームページで公表しているとのこと。巨大地震が発生すれば、津波だけでなく地面の液状化もあります。もしも生活インフラが損壊した場合に備えて、水や非常食を準備しておいたり、近隣の関連施設とも日頃から連携する必要があると感じました。

講座には近くの就労継続支援B型事業所みみの木から聴覚障がい者の皆さんが20人



ほどこ参加くださった。那覇市障がい福祉課から手話通訳者を2名派遣していただきました。今後もこの地域で共に生きる者として、いざという時に助け合える態勢でありたいと思います。

第46回チャーがんじゅう講座 「世代を越えて伝わる トラウマ ～子や孫にみる 沖縄戦の影～」

2月15日に精神科医の蟻塚亮二先生を講師にお迎えして講座を開催しました。参加者はおよそ80名も訪れて会場は熱気があふれました。沖縄戦によるPTSD（心的外傷後ストレス障害）を発見・報告した蟻塚先生はさまざまな事例を紹介。日本の戦後社会は帰還兵のトラウマを見て見ぬふりをして、高度経済成長のための企業戦士にしたと考えられます。そのため家庭ではアルコールがらみのDVや性暴力、虐待やひきこもりなどが頻発。他方、沖縄では「トラウマに向き合うことで文化が成長し、社会の共有財産となった」とし、沖縄戦を勉強する人の多さやフラワードモ等の取り組みを挙げました。また、「ちむぐりさ」という言葉でもわかるように、沖縄では痛みの主体と客体が分かれておらず、悲しみをみんなで悲しめることから、痛みを集団で分かち合い再起できると説明しました。終了後のアンケートには共感や感動の声が多数寄せられました。講座の様子は後日YouTubeで動画配信されることになっています。



トピックス

□10月13日～2月9日（全5回） 琉球新報

各方面で活躍する女性たちが沖縄の今と未来を照らすコラム「女性たち発うちなー語らな」に、10月からのリレー執筆者として平良次子館長が登場しました。1回目の10月13日は「バス物語」と題して県内路線バスの心がほっこりするお話。2回目は11月10日の「会えない人のことば」。記念館での体験と南風原陸軍病院壕の出来事を紹介し、終わることのない対話について、読み手に深い考察を促すものでした。3回目が12月8日「外」との接触で知ること。若い時に海外で投げかけられた「戦争の歴史」認識や感覚への疑問、そこから自身の根底を見つめ直して感じたこと、そして今。「世界の平和を考えるなら、現在何が起きているか、どこに向かっているかを見極める力を付けよう、も付け加えたい」としめくくりました。4回目は1月12日「織物から広がる世界」。織物の収集を通して得た二つの気づきとは？世界をつなげる共通原理そのものを見い出して感動したことと、「平和を構築する」という大きい話にすら織物にヒントがあると思ったことが綴られていました。5回目は2月9日「流行歌の罪と親の論し言」で、世代を越えて誰もが知っている流行歌が思考や学びを止める役割を果たしてしまっていないか？と鋭く指摘。一方、「ていん

さぐぬ花」の歌詞にもある「親めゆしごとう」（親からの諭し言葉）がもたらす深く大切な気付き。言葉は思考や行動に影響を与えて生き方も左右する可能性を示しました。

□10月13日付 沖縄タイムス

創作組踊「対馬丸」が北谷町のちやたんニライセンター開館20周年企画として上演されました。となえ（台詞）は全てうちなーぐちで、所作なども組踊の様式で行われて、実に見事でした。渡口眞常副代表理事は「子どもたちの演技が心に響いた。初演（二〇一九年）も観たが、今回はさらにブラッシュアップされている。対馬丸事件の悲劇を継承してほしい」と感想を述べました。

□10月25日付 沖縄タイムス

二〇二四年度の県功労者に地方自治の部で当会評議員の嘉数昇明さん、平和・人権の部で語り部の照屋恒さんが選ばれました。県の発展に寄与した人や県民の模範となる人に対して贈られるもので、表彰式は11月3日に那覇市のパシフィックホテル沖縄で開かれました。



嘉数さんとご家族

前列中央が照屋さん



つしま丸児童合唱団便り



令和6年度下半期 活動報告

つしま丸児童合唱団では随時団員を募集しております。お申し込みは、対馬丸記念館まで。



■ハロウィンパーティー

10月26日、対馬丸記念館でハロウィンパーティーを行いました。参加者たちは赤ずきんちゃんやドラキュラなどに仮装し、ピンポン玉ゲームやビンゴゲームを楽しみました。

■ワークショップ
10月12日、対馬丸記念館で「演劇を使った平和を考えるワークショップ」が開催されました。ワークショップでは、つしま丸児童合唱団以外にも那覇青少年舞台プログラムの子どもたちなど多くの方々が参加し、演劇を通して対馬丸のことを学びました。



■第29回なぐやけの碑慰霊祭

つしま丸児童合唱団は、10月5日に若狭海浜公園で行われた「第29回 那覇市戦没者追悼式」に参加しました。今回は10・10空襲から80年という節目の年で、遺族など約170名が参列。

那覇青少年少女合唱団や南風原青少年少女合唱団も一緒に参加し、平和の祈りを込めて歌声を響かせました。

■国際平和賞シンポジウム

つしま丸児童合唱団と那覇青少年少女合唱団・南風原青少年少女合唱団は、10月20日沖縄県立博物館・美術館で行われた「令和6年度国際平和シンポジウム」のオープニングに参加し、平和の歌を届けました。



■クリスマス会

12月7日、対馬丸記念館にてクリスマス会を開催しました。郵便局長や同夫人会の皆様、そして地域の方々も参加し、子どもたちと一緒にクリスマスソングを歌いました。また、サンタさんも登場して子どもたちはとても喜んでいました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。



■つしま丸児童合唱団育成会の結成

1月25日、「合唱団の子どもたちの活動を支え、世代を超えた交流を通して、子どもたちの豊かな心を育み、地域交流に寄与する」ことを目的として育成会が発足しました。子どもたちの練習に合わせ一緒に歌を歌った、各種活動のサポートをする大人の応援団です。月に一回ほど集まる予定です。



【那覇秀作展】

12月21日～1月19日、対馬丸記念館1階企画展示室で「特別展 那覇秀作展」を開催しました。今年度は「第72回 全琉図画作文書道コンクール」で最優秀賞・優秀賞を受賞された那覇市内の子どもたちの作品を展示し、計123点の作品を紹介しました。

来館者から「自分やお友達の仕事が見れて良かった」「子どもたちの生活している力を感じました」「生き生きとした作品が素晴らしかった」など多くの声を頂きました。

みなさま、特別展に足を運んでいただきありがとうございました。

学芸員 嶋袋 寿純
すずみ



イベント・行事

□12月14日 第一回臨時理事会
つしま丸児童合唱団育成会の設置などについて話し合いました。

□12月30日 小桜の塔すす払い
例年通り、塔と階段の清掃や花壇の除草をおこないました。

ニュースあれこれ

□9月18日 株式会社真宣組様から53万円のご寄付をいただきました。同社は昨年8月22日付の朝刊で広告特集を立案し、琉球新報社・沖縄タイムス社・読売新聞社の愛知県中部支社版で掲載。県内を中心に約50の企業・団体から賛同を得て、その一部を寄付金として贈呈してくださいました。



ご寄付

大口寄付（敬称略）

沖縄歯科研修同好会 9月19日
高良政勝 10月23日
照屋恒 11月27日
沖縄ライオンズクラブ 12月27日

□令和6年9月1日
〜令和7年1月31日

（順不同・敬称略）

銘苅朝規、銘苅あさ子、知名マサエ、土屋桂、高良博、大野裕、知念かねみ、新垣幸子、眞鍋迪恵、上原利恵子、諸見里美・康彦、佐久本眞智子、知花政子、山入端真弓、島袋みほ、島袋珠子、嘉陽和枝、国吉真徳、たから歯科、古謝淳、平良次子、吉山小百合、石川芳子、城島としこ、山川侑子、嘉手納知信、秀子、仲村タカ子、池田幸枝、眞喜志康成、川上フサ子、高嶺るみ子、大濱雅彦、篤一夫、町田順子、田島征彦、あしは会、石倉寿一、竹内宏行、谷修二、上島茂樹、西口忠、喜屋武善範、糸田川廣志、

前田敬昭、島袋常宏、新里肇、山中友子、山口至彦、新垣匡子、松田淳子、米澤雄二、仲宗根明美、上間勝子、宜野座久美子、金城美恵、藤原房子、名護淳一、宮里清、上田明、吉田ふみ子、大倉一美、井上拓人、中村篤、亀田明子、駒村利美子、村山純、翁長晴永、阿部圭助、新里末子、渡久山久子、比嘉早苗、内藤啓子、野原正子、羽角淳一、玉城優江、玉城京子、増田恵子、新城園枝、魚谷早苗、石橋薫・百合子、加藤満、竹村恭一、平妙子、宇根純子、知名美智子、小林和子、神里幸子、津波剛、島袋京子、津島一男、井坂猛、稲葉司、奥村啓子、柴原智幸、田所由起子、金城マサヨ、木下有、野里千恵子、大木久、近藤習子、宮里八重子、山里将進、西脇美保、沼口照千代、高良光重、仲間初子、村山弘行、伊佐キク、渡名喜信子、佐々木寛、平良龍児、平良花音、平良梨月、屋宜秀信、普天間初子、松本勝幸、平良輝子、粟國寛、坂本誠志郎、池宮城紀夫、北浦眞輝、橋本

敏明、大山日出男、名嘉山興武、山崎正樹、中村澄子、又吉國雄、山内久美、安藤和枝、渡邊史博、嵩元のり子、仲尾昭子、瑞慶覧侑子、伊佐成子、山加惠津子、川岸祐子、島袋浩生、岡本百世、馬上典子、岩城幸栄、西田律子、吉田道代、安里和子、千葉和子、金子堅二、豊岡良子、長田篤忠、座間味由美子、うなあ沖縄、上門根美、波平まき子、与那覇寛信、宮城千恵、上原真司、春山幸子、住吉誠、前田正宏、知念範子、長嶋和人、和田みどり、吉田創、風間沢登、浅田尚宏、外間寛、渡口眞常、沖縄物産企業連合、苗村宏忠、喜友名朝英、伊藤直樹・明美、片桐武司、西銘セツ子、上野和子、仲宗根泰昭、堤由紀夫、酒井俊一、佐久本まり、塚本勝彦、石川正次、大城勉、神里政人、翁長幸治、照屋輝子、兼城健一、菊地洋、西川博、後藤顕治、羽生恵美子、小穴いづみ、大里千代子、山根ひろ子、比嘉吉直・紀美代、當山健次、中村武



史、新垣君枝、名城郁子、中山功枝、三浦千賀子、西原幸子、甲野桃子、大内光子、兼村道子、梅本テル子、兼元和子、伊波洋正、高橋英子、松井正孝、花岡光、宮平茂子、上原奈々、阿含宗、東風平朝淳、ジョイネス沖縄、足立理一郎、湊崎博、徳永勉、梶間容子、真志取京、比嘉悦子、武田正勝、竺原綾子、小山裕子、倉持昌彦、各務賢一、長野秀樹、國吉誠、宮良敏子、小南菜月、一ノ瀬恵子、最上直人、加藤重治、小倉るみ、池田宏、白井洸子、村杉正洋、南哲夫、真栄城嘉一、西沢洋明、桜井真弓、石田哲男、加藤麻美、片岡道昭、金城光也、前野健太、吉平弘一